

図画工作科 学習指導案

I 題材 見えないものが 見えてきた

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

・感じたことを基に、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどの造形的な特徴を理解する力。

②思考力、判断力、表現力等

・形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどに着目して、表現の特徴や意図などについて考える力。

・自分なりの鑑賞方法を思い付き、自分の見方や感じ方を深める力。

③学びに向かう力、人間性等

・主体的に鑑賞する活動に取り組み、自分なりに作品のよさや美しさを見つけて味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度。

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 鑑賞

(1) ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

(3) 題材の価値

本題材は、感じたことを基に友達と話し合いながら、美術作品を自分の考えた方法で鑑賞し、作品のよさや美しさを自分なりに見つけて味わう学習である。その価値は以下のとおりである。

美術作品の鑑賞は、初発の印象や分析的な見方、自分の考え方と異なる考え方などを総合的に取り込みながら、自分なりによさや美しさを見出して味わうことが大切である。しかし、授業の中では、本物の美術作品を鑑賞する機会は極めて少なく、写真や画像などでは、本物の美術作品と同様の実感や感動を喚起することに難しさがある。そこで、授業の中で、初発と最後の鑑賞の間に、主体的で体験的な活動を行うことによって、実感を伴う想像や推理を促し、自分なりによさや美しさを見付けながら味わうことができると考える。

本題材は、墨の濃淡だけで表現された六曲一双の松林図屏風を、自分なりに考えた作品との対話の方法を試しながら作品を鑑賞することによって、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどに着目して、表現の特徴や意図などについて、よさや美しさを感じ取ることができる。想定される鑑賞方法は、本やインターネットで調べる、電子黒板で全体や細部を繰り返し見る、墨や木炭で模写をする、屏風を実際につくり並べ方や見え方を試す、ドライアイスや光などで場面を再現するなどが考えられ、そのような鑑賞方法を試す中で、造形的な視点を自分で見付けながら作品を見直すことができる。

また、子どもたちは、自力で見付けたことや気付いたことがある際に、主体的に友達と話し合ったり、作品を見直したりすることが多いため、自分の考えた方法で鑑賞することによって、一般的に評価の定まった美術作品を、自分なりの見方で味わうことを楽しもうとする態度を育てる

ことができる。

本題材で扱う教材の価値は、以下のとおりである。

長谷川等伯の松林図屏風は、深い霧に包まれた松林を、墨の濃淡だけで表現した作品であり、書写で墨を扱った経験や、6年題材「消して見えるもの」で、木炭の濃淡だけで自分なりのイメージを表現した経験のある子どもたちにとって、作者の表現の特徴や意図を身近に感じられる作品である。

作品は、同じような形の松が繰り返されているだけの非常にシンプルな表現のため、かえって同じ形の繰り返しによる律動などの動きや画面上の奥行きに気付きやすい。また、松の描かれ方が、筆致の強弱や色の濃淡によって意図的に描き分けられているため、表現の意図を推測しやすい。そして、墨でほとんど描かれていない画面上の空間についても、全体の構図を見ながら光や気温、空気感まで推測して味わうことができる。さらに、六曲一双の屏風であり、左右の配置によって印象が変わるため、表現の特徴を加味して自分なりにバランスを考えながら創造的に作品を見直すことができる。

また、学校での鑑賞の授業では実物を鑑賞することは難しい中で、この作品は、東京国立博物館のe 国宝で高解像度の画像データを得ることができ、電子黒板で操作することによって、六曲一双の屏風を全体像から非常に細かな部分まで詳細に見ることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、中学1年「葛飾北斎の神奈川沖浪裏を読み解こう」で、美術作品を鑑賞し、作品が表している主題、形、色、表現方法などから想像や推理を働かせ、絵の世界を探究する楽しさを味わう学習へと発展していく。

(5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「消して見えるもの」において、描くことや消すことを繰り返しながら、色の濃淡の微妙な変化から、感じたことを基に表したいこと思い付き、表し方を工夫して絵に表す学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 自分の表したいことを合わせて、描画材を選んだり扱い方を変えたりして表し方を工夫することができた。このような子どもたちが、作品を見て感じたことを基に自分なりの鑑賞方法を工夫することができるよう、子どもの考えた鑑賞方法に必要な材料や用具を、子どもと相談して用意する。
- ② 手や用具の扱い方による色の濃淡の微妙な変化のよさや美しさを感じながら、自分の表したいことを思い付くことができた。このような子どもたちが、**実感を伴う想像や推測を基に自分なりによさや美しさを見付けることができるよう、自分の考えた方法で鑑賞し、自分なりに見付けたことや考えたことを言葉にまとめる課題を設定する。(ア)**
- ③ 感じたことを基に友達とやりとりしながら、自分なりの思いを工夫して表す活動の楽しさを味わうことができた。このような子どもたちが、**友達とやりとりしながら、自分なりの鑑賞方法で作品のよさや美しさを味わうことができるよう、子どもたちが必要に応じて作品や友達とやりとりすることができる、自分なりの鑑賞方法を試す場と考えを共有する場を設定する。(イ)**

Ⅲ 目標及び評価規準

IV 指導計画

※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

V 本時の学習

- 1 ねらい 自分なりの鑑賞方法を思い付き、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどに着目して、表現の特徴や意図を自分なりに見付けながら、自分なりに作品を味わうことができる。
- 2 準備 電子黒板 模造紙 マーカー 子どもから要求されたもの（墨汁、和紙、デジタルカメラ、タブレットPC、スモークマシーンなど）
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を描く技術がすごいと思うので、実際に作品を見ながら墨汁で描いてみよう。 	<p>○自分の考えた方法で鑑賞できるよう、前時の学習を振り返り、本時のタイムスケジュールを確認する。</p>
<p>課題 自分なりの鑑賞方法を試しながら、長谷川等伯の松林図屏風の魅力に迫ろう（ア）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿</p> <p>作品を見て感じたことを基に、自分なりの鑑賞方法を試したり、友達と話し合ったりして作品を見直ししながら、自分なりのよさや美しさを見付けようとする姿</p>	
<p>2 自分の考えた方法を試しながら、作品を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一見簡単そうだけど、実際に自分で描いてみるとそっくりに描けないな。描き慣れていないと、一発で松の形にならないよ。 ・墨汁の濃さが違うな。薄くするにはどうしたらいいかな。水を混ぜても、こんなに薄い色にならないぞ。ほとんど水で描いたのではないかな。ここの部分は滲んでいるように見えるから、たぶん、ほとんど水で描いていると思うよ。 ・色の濃淡で、影にも見えたり、遠くにも見えたりしているよ。 <p>3 自分の見付けたことを基に友達と話し合い、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥行きも感じられるな。見えない部分にも松林が続いていると思うよ。 	<p>○鑑賞する際に自分で考えた観点と方法の関係性を自覚できるよう、鑑賞方法によって明らかになることについて問い掛ける。</p> <p>○造形的な視点に着目して鑑賞することができるよう、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどの視点から、表現の特徴や意図について発言している子どもを称賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">自分なりの鑑賞方法を試したり、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどに着目し、表現の特徴や意図について発言したりしている。 <行動・発言②></p> </div> <p>○自分の見付けたことを基にして鑑賞することができるよう、友達と話し合いながら作品を見直して、考えをまとめることのできる時間を確保する。</p>

指導と評価の計画（全4時間）

目標	長谷川等伯の松林図屏風を自分の考えた方法で鑑賞する活動を通して、作品のよさや美しさを自分なりに見付けながら味わう。		
評価規準	(①知識・技能) 作品を見て感じたことを基に、自分なりの鑑賞方法を通して、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどの造形的な特徴を理解する。 (②思考力・判断力・表現力等) 自分なりの鑑賞方法を思い付き、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどに着目して、表現の意図や特徴を自分なりに見付けている。 (③主体的に学習に取り組む態度) 自分の考えた方法で鑑賞し、自分なりに見付けた作品の特徴やよさについて、自分の考えを言葉にしてまとめている。		
見方・考え方	感性や想像力を働かせ、作品を、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら作品のよさや美しさを見付けること。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう あらわす・ひろげる ふりかえる	1	○初発の感想を書く。	○感じたことを基にして鑑賞することができるよう、自分一人で作品を見る活動を設定する。
	3	○自分の考えた方法を試しながら、作品を見直す。 本時3/3  長谷川等伯の松林図屏風（左隻）	○鑑賞する際の観点を自分で選択して作品のよさや美しさを見付けることができるよう、自分の考えた方法で鑑賞し、自分なりに見付けたことや考えたことを言葉にまとめる課題を設定する。(ア)  長谷川等伯の松林図屏風（右隻）
		○自分の見付けたことを基に友達と話し合い、感想を書く。	○自分の見付けたことを基にして鑑賞することができるよう、友達と話し合いながら作品を見直す活動を設定する。
共通事項	ア 作品を見て感じたことを基に、自分なりの鑑賞方法を通して、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどの造形的な特徴を理解する。 イ 形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。		

評価項目<評価方法（観点）>

◇作品を見て感じたことを基に、形や色などの造形的な特徴について発言したり、記述したりしている。
<発言・学習プリント①>

◇自分なりの鑑賞方法を試したり、形や色の濃淡、動き、奥行き、バランスなどに着目し、表現の特徴や意図について発言したりしている。
<行動・発言②>



自分なりの鑑賞方法を試す場と考えを共有する場(イ)

◇自分なりに見付けた作品の特徴やよさについて、自分の考えを伝えたり、記述したりしている。
<行動・発言・学習プリント③>